

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29201 プログラム名 草原の国モンゴルでの医療援助・学術調査を通じて、みんなに知ってもらいたいこと



開催日：平成29年7月28日(金)

実施機関：愛知学院大学

(実施場所) (愛知学院大学歯学部附属病院)

実施代表者：夏目 長門

(所属・職名) (歯学部・教授)

受講生：小学生12名・中学生11名・高校生4名

関連URL：なし

計27名

【実施内容】

■受講生にわかりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点

- ・講義の説明を行う際、実際に学術調査で撮影した写真を多用したパワーポイントのスライドを見せることで、視覚的に興味を持ってもらうよう工夫した。
- ・難しい専門用語をひとつひとつ詳しく説明し、理解を容易にした。
- ・実習では、4つの小グループに受講生を分け、教員や大学院生を複数名配置し、受講生からの質問に適宜答えることで、受講生全員が体験できるよう配慮した。
- ・愛知学院大学に留学し学位を取得した、前モンゴル医療科学大学歯学部長で現在は東北大学歯学部客員教授のアリオントウール・ガリックフー先生及びモンゴル国立医療科学大学の学生1名にオブザーバーで参加してもらい、モンゴル人を身近に感じてもらった。
- ・実習「手術器具に触ってみよう」において、小学生の参加者には危険度の低い採血体験を行ってもらい、中学生以上の参加者には危険な器具を扱う縫合体験を行ってもらうことで、年齢に沿った実習内容とした。
- ・本プログラムを受講したことが形に残るよう、縫合体験を一人ひとりスポンジで行い、そのスポンジを持ち帰ることができるようにした。
- ・小学生、中学生、高校生と理解度がそれぞれ異なるため、年齢別に4つのグループに分け、理解度に合わせ研究室の見学や実習を行った。
- ・小学生に配付した資料には仮名を振り、理解しやすいようにした。

■当日のスケジュール

- 12:30～13:00 【受付】(愛知学院大学歯学部附属病院7階 講義室1)
- 13:00～13:10 【開講式】挨拶、オリエンテーション、日本学術振興会(金井先生)による科研費の説明
- 13:10～13:50 【講義】モンゴルでの医療援助
- 13:50～14:00 【休憩】
- 14:00～14:40 【講義】病気についての大学の講義実習の体験
- 14:40～15:00 【クッキータイム】
- 15:00～15:30 【実習】モンゴル人の遺伝子解析を行っている研究室の見学
- 15:30～15:35 【休憩】
- 15:35～16:20 【実習】「手術器具に触って縫合・採血をやってみよう」
- 16:20～16:30 【質疑応答】
- 16:30～17:00 【修了式】感想、アンケート記入、未来博士号授与 17:00 終了

■実施の様子



日本学術振興会より金井篤子先生



アリオントウル・ガリックフー先生



病気についての大学の講義を体験



真剣な様子の受講生



研究室の見学



実習担当者たち



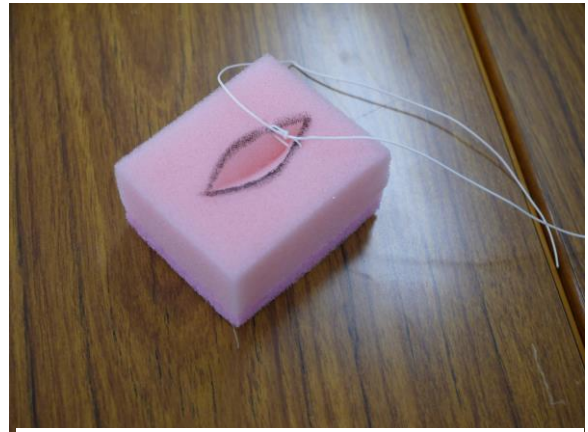
手術器具の説明



採血体験



縫合体験



スポンジを使って受講生が実際に縫合



縫合時における男結びの練習



小学生も真剣な眼差しで説明を聞いています



展示したモンゴルのゲル



集合写真

■事務局との協力体制

- ・本学の入試広報課に依頼し、県内の高校へプログラムの周知を行ったり、プレスリリースや学内HPへの掲載などを行ったりしてもらった。

■広報活動

- ・県内の中学校、高等学校 400 校、名古屋市内の図書館に案内チラシを送付した。
- ・プレスリリースおよび大学のHPに掲載を依頼した。

■安全配慮

- ・実習の安全を確保するため、受講生 4 人に対し 1 人の割合で医療従事者を配置した。
- ・参加した受講生および実施協力者は傷害保険に加入した。

■今後の発展性、課題

- ・受講生からは「研究者の方や病院の先生方と話すことができ、このプログラムがきっかけで大学院生等になった方もいたので頑張ればできるのかなと感じることができた」、「手術器具に触れたり実習に参加することができ、来年歯学部に入りたいと強く思った」、「モンゴルでの医療援助や口唇口蓋裂について講義を受け初めて知ったことがたくさんあり、研究することに興味がわいた」、「器具などを触ったり傷口の縫い方などをスポンジで実際に行ったりしたことで、リアリティがありとても楽しかった」「採血は本物の針が入っている物を使ってやったのでドキドキした」「1つ1つの話がとても分かりやすく40分の授業もあっという間に終わった」といった感想が寄せられ、研究や学術調査に興味を持ってもらうことができた。
- ・保護者の方からも、「縫合、採血をどうしてもやってみたいと子供が興味を持ったので申し込んだ。将来の夢へのひとつの選択肢になれば親として嬉しい」、「子供にとって科研費の報告をしていただけたこと、研究の成果について知る機会をいただけたことは色々な意味で大変良い刺激になった」、「自分が子供の頃はこのような体験はなかったが、自分の子供がこのような職業に対して強い使命感を持つ先生方の話を直接聞かせていただけて感謝しています」などの評価を頂いた。
- ・自由研究の課題とした受講生もいた。
- ・30名の募集枠を設けたが、すぐに定員に達してしまい最終応募者は33名(事前キャンセルおよび当日キャンセル6名)であった。
- ・「時間がなくてしっかり覚えられなかった」という意見もあった。実習時間の取り方等を今後の課題としたい。

【実施分担者】

- ・古川 博雄(心身科学部・教授)
- ・新美 照幸(歯学部・准教授)
- ・南 克浩(歯学部・講師)
- ・井村 英人(歯学部・講師)
- ・鈴木 聡(歯学部・非常勤講師)

【実施協力者】 5 名

【事務担当者】 刑部 理恵(歯学部・口腔先天異常学研究室)